

“その先”の極地へ 究極の砕氷客船、いざ

環境への配慮、快適性、そして船としての最強の機能を備えた
ポナンの極地船「ル・コマンダン・シャルコー」が2021年10月に就航した。
同船の就航式、そして今後見せてくれるであろう極地の世界を紹介しよう。

写真=藤原暢子(4~7ページ) 文=藤原暢子



SHIP DATA

船名:ル・コマンダン・シャルコー(ポナン)
総トン数:3万トン
乗客定員:245人/乗組員:215人
<http://www.ponant.jp>

船の引き渡し後、北極点への試験運航を成功させた「ル・コマンダン・シャルコー」



©StudioPONANT/Nathalie Michel



1 北極圏で行う「氷上釣り」。専門家と共に氷に穴を開け、昔ながらの方法で魚を釣る。海中の生態なども学べる 2 ドライスーツを着て北極の海を泳ぐことができる「コールド・ウォーター・スイミング」。極地の海に身を置く驚きの体験 3 流氷の間の海を滑るように進み、原始的な極地の自然に近づくカヤック。太古の昔からイヌイットが愛用してきた移動手段だ

同社の熱い思いで造られた 究極の極地客船

一般の人が極地クルーズ（北極や南極）に参加できるようになって約20年が経つ。ポナントは2010年に「ル・ボレアル」を建造し、快適な極地クルーズ（スモール・エクスペディション）の提供を始めた先駆者の船会社だ。同社の夢はそれだけでは終わらなかった。「もっと快適でラグジュアリーに。そして地球に負担をかけずに、極地のさらに奥へ、違う航路で行ける砕氷船」を目指し、「ル・コマندان・シャルコー」を就航させた。

船名は、フランスの著名探検家ジ



上：北極クルーズのハイライトのひとつは北極グマとの出会い。エクスペディション・リーダーたちの腕の見せどころ 下：ハイキングは海岸を歩く簡単なものから、スノーシューを履いて、初期の探検家のように、人類未踏の地を踏みしめることまで体験できる

ヤン・バプティスト・シャルコーの名を冠している。極地探検に最も多くのワインとシャンパンを持っていき、当時命がけだった極地探検でも乗組員の命を一人たりとも失わせなかった伝説の冒険家だ。

同船は厚さ6メートルの海水も割って進むことができる砕氷船で、極地観測船と同じレベルの機能を持つ。ゆえに既存の耐氷客船では行くことができなかった場所まで到達することができるようになった。今までの極地クルーズの、その先が体験できる船なのだ。



船尾に設けられた温水プール「ブルーラグーン」。北極の氷海を眺めながら泳ぐことができる

ポナンの日本・韓国支社長であり、極地でエクスペディション・リーダーとしても活躍する伊知地亮氏に同船での極地クルーズの特長を聞いた。「極地を訪れる魅力は、過酷な環境ゆえに、地球に残された手つかずの美しい景色を見たり、そこでしか見られない動物と出会えることです。さらに同船の航行機能なら前人未踏の世界に行くことができます。それも乗客の方は特別な体力を必要とせず、フランスならではの美食はもちろん、ラグジュアリーな船内空間で過ごしつつ、極地体験ができません」。北極なら、見渡す限り360度の氷海を船が滑るように進み、地球の丸さを感じられるという。また新しいアクティビティも加わった。特殊なドライスーツを着て北極の海を泳いだり、氷上釣りをしたりできる。同船らしいアクティビティは安全性を確認しつつ、今後さらに増える可能性もある。極地クルーズを支えるエクスペディション・リーダーたちも熟練の最強チームゆえ安心度も高い。



北極圏に向かう途中で撮影された船首とオーロラ
©LAURA JOURDAN

暮らす人々の生活を垣間見られるのも、北極クルーズの魅力の一つです。今までの極地クルーズで培った体験をさらに進化させ、新しい風景や発見、楽しみを提供できるのが、同船であることは確実です」。

究極の極地クルーズができる同船は、環境への配慮も「究極」だ。電気とLNGを燃料とするハイブリッド客船であり、高度な汚染処理システムなども搭載、環境への取り組みは世界トップの評価を得ている。

「ポナンの環境保護への取り組みは、社会的風潮から行っているだけではありません。弊社はもともと船乗りが始めた会社なので、愛する海を美しく保つ」というのが会社精神の根幹であり、魂なんです」。

唯一無二の極地クルーズと、船内では快適性と究極のラグジュアリーを提供する同船。船内の様子も追って紹介していこう。



1 シャルコー氏のひ孫(左)が同船への期待を語り、肖像写真を寄贈した
トル割りの後、オフィサーが花火を振る
2 エトルタ沿岸を背景にフランス海軍の音楽隊が演奏を行った
3 祝祷、シャンパンボ

北フランスのル・アーブル港に停泊している「ル・コマンダン・シャルコー」に乗り込んだ。

同社の他船同様、洗練されつつも落ち着く内装は継承している。ただ船中央の横3メートル、縦9メートルのLEDに映し出されるアートと音楽、9階までのガラスのエレベーターは同船だけで、迫力がある。

公室は5階と9階に配されている。5階はレセプション、シアター、シガー・バー、居心地のよいラウンジ&バー、シヨップ、そして船首方向には究極の美食を提供するガストロノミック・レストランがある。

9階の中央部分には、同社初の室内プール、ジム、スパがあり、スパにはアイスルームやサウナ、美容室やトリートメントルームがある。

船首には、極地での風景をゆつたりと見られるパノラミック・バー&ラウンジ(ライブラリーもある)。景色を楽しみながら食事ができるレストランを抜けると、もう一つの驚き awaits。3つ目のレストランを併設したオープンエアのラウンジバーが広がり、中央には溶岩石に囲まれたヒーター、船尾には「ブルーラグーン」という名の温水プールがぐるりと取り巻くのだ。極地には十分すぎる施設と空間に圧倒される。

Public Room

かつてないラグジュアリーな 空間とサービスで極地へ

同社の客船はすべてが1万トン前後、乗客定員も最大約260人。

同船は乗客定員は変わらず、船のみ約3倍に。

圧倒的な空間と施設、究極のラグジュアリーな極地船となった。



9階船首にある「パノラミック・バー&ラウンジ」。ガラスを多用しているためオーロラなども見やすい。外のデッキにも出られる



9階船尾にある「Inneq(イヌック)」はオープン・エア・バー。食事でもでき、その周りにはプール「ブルーラグーン」が。水温は36度に保たれ、極地でもプールから風景が見られる



朝食はビュッフェとアラカルト、昼はコースが供される、眺めのよい9階のレストラン「Sila(シラ)」※イヌイト語で空の意味
朝食のビュッフェやスイーツタイムには見た目にも美味しそうなものが並ぶ



アトリウムの巨大なLEDとその下のモニターには、フランスのデジタルアーティスト、ミゲル・シュバリエ氏による自然をモチーフにしたアートが映し出される。音楽もオリジナル

シャルコー氏の意志と 神父の祝福を受けて

夕方4時半、同船はル・アーブル港を離れた。汽笛が鳴り、フランス海軍の音楽隊がブルターニュ独特の音楽を奏でる中、断崖が続くエトルタ沿岸をゆっくり航行し始めた。

全員が一度シアターに集合し、ポナンのエルベ・ガステイネル代表取締役社長や船長から、同船建造への壮大な道のりや、セレモニー前に終えた北極での試験運航の様子を聞く。そして一人のマダムがステージに立った。船名となったジャン・バティスト・シャルコー氏のひ孫である。曾祖父、シャルコー氏の海や極地探検、極地での科学者としての強い思いを語り、その意志を引き継いだ同船にシャルコー氏の肖像写真を寄贈した。同船ではシャルコー氏に習い、科学者を無料で乗船させ、調査ができる機材や研究室も備えている。

夜7時、私たちは再び船首に集まった。カトリック神父が全員の前で船と乗組員、そして今後の極地クルーズの安全を願って、祝福を行った。シャンパンボトルが舳先に当たって割れ、海兵隊の演奏の中、オフイサーたちが一斉に花火を振る。派手なパフォーマンスはないが、同船ら



「市場のない極地でどれだけ新鮮でおいしいものが出せるか、われわれも共にチャレンジしたい」と語ったアラン・デュカス氏



Gastronomy

極地で食するアラン・デュカスの“美食”

もともとポナンの料理はアラン・デュカスが持つコンサルティング会社が監修を行っていたが、同船ではデュカス氏が直接監修を行うディナーを食べながら“極地体験”ができる。



5階のガストロノミック・レストラン「NUNA(ヌナ)※」ではアラン・デュカス氏監修のディナーが食べられる。シェフ、パン職人、パティシエもアラン・デュカス氏のレストランから派遣。ワインは著名なソムリエがセレクトした100種類を用意。特別なワイン以外は追加料金なしで飲める ※イヌイト語で大地、地球

Lounge

探検後は船内のどこもがくつろげる場所

9階のラウンジで眺望を楽しむのもよいが、大冒険の後や食後は自宅の居間のような「メイン・ラウンジ」でのんびり過ごしたい。顔なじみになったウエイターがお気に入りのドリンクを運んでくれる。



本当に暖かみを感じそうな暖炉のオブジェを挟んで、両舷に広がる「メイン・ラウンジ」。座り心地のよいソファや椅子、バーやピアノもあるので長居してしまいそう



極地客船とは思えない“ 船内施設 ”の数々



最新鋭の操舵室も乗客はほぼいつでも訪ねることができる



極地探検にあると便利なものが売っているショップ



シガーやハード・リカー愛好家には「シガー・バー」も

取材メモ

ル・コマダン・シャルコー
就航式
(フランス/ル・アーブル港)
日程:2020年9月28日(火)~29日(水)
船名:ル・コマダン・シャルコー(ポナン)



しいセレモニーに胸が熱くなった。ダイナーでは世界的に著名なシェフ、アラン・デュカス氏が登場。「環境に配慮し、極地を目指す同船の挑戦を聞き、私も一緒に「挑戦」したくなりました。この船の料理は私が直接監修します」と発表した。デュカス氏の料理を食べながら、試験運航に参加したクルーズ・ディレクターからいろいろな話を聞いた。万が一、極地で不測の事態が起こった時のために北極点でキャンプを行ったこと、乗客の命を守る防寒具の開発を自社で行ったことなど……。そこに忘れられない言葉があった。「自然のみに囲まれた極限の地だと雪の一片さえ美しいことに気が付きます。そして私たちが今後何を守るべきか……この船で実際に現地に行ってみて、深く理解できました」。安全で快適に今後の地球と向かい合える同船の極地クルーズに必ず参加しようという心を決めた1日となった。

船尾にある、「オーナーズ・スイート」は115平米メートル。
ジャグジー付きのテラスは168平米メートル。客室定員は
6人なので家族で極地クルーズができる



©Taisuke Yoshida



94平米メートルのメゾネット「デュプレックス・スイート」(客室定員2人)も船尾に
4室あり、ジャグジーと広いテラスが。上段のベッドルームから絶景が見られる



©Taisuke Yoshida

Suits

上質さと洗練に包まれた 自分だけの客室空間

木のぬくもりが明日の冒険への
力を与えてくれそうな客室は全室バルコニー付き。
機能的でありながらも、
上質なリネンや壁に掛けられた写真や絵画が
自室のように馴染んでくる。

水はすべてリサイクルしながら使うので、ペットボトルではなく、瓶に詰められた炭酸水と水が客室に置かれている。持ち運び用の保温のボトルと共に



バスアメニティーは、パリのシャンゼリゼに本社を置く老舗香水ブランド「ディプティック (diptyque)」の「フィロシコス」シリーズを詰め替え式で



客室は全6タイプ。一番客室数の多い「プレステージ」含め、全室バルコニー付きで十分な快適さ。同社の船はシャワーとトイレが別々なのも好評



©PONANT- Gilles Trillard

“健康”も“美”も 絶景と最高級スパで維持



Spa

最上階の中央にはジムを併設したスパが位置する。同社初の温水室内プールの周りにはリクライニング・チェアが並び、窓越しに絶景を眺められる(バーカウンターもある)。



スパはフランス発のラグジュアリーなスキンケア・ブランド「ビオロジック ルシェルシュ (Biologique Recherche)」が入っている。美容室、ネイルサロン、トリートメントルームのほかに、サウナやアイスルームも備える

極地船としては究極のラグジュアリー客船と言える「ル・コマンダン・シャルコー」。ここで言うラグジュアリーは「きらびやか」という意味よりむしろ、旅を豊かにしてくれる上質なものをあつらえた、本質的なラグジュアリーだ。

ぐっすりと眠れるベッドから着心地のよいバスローブは冒険前後の興奮をほどよく和ませてくれるし、自然派のスパやジムではじっくりと体調に向き合うことができる。

最上階の、パノラミックなラウンジや窓一面に席が並ぶレストラン、船尾のデッキの、リサイクル熱を使ったヒーターまわりや温水プールから、極地の風景や動物と出会うという特別な思い出を提供し、粋な計らい“をしてくれるのは実にポナン流。

世界的なシェフ監修の料理や選ばれしワインも、極地への旅を豊かにエキサイティングなものにしてくれる。さらに居心地のよい空間には40人のアーティストが関わった作品がさりげなく飾られている。

ポナンだけがかなえてくれる未開の自然との対峙、その後の船内での豊かなつろぎと美食、アート。これ以上の旅時間と空間は、この船でしか体験することができない。

極地との対峙の前後は
極上の空間で過ごす



南極

究極のラグジュアリー砕氷客船 「ル・コマンダン・シャルコー」で航く 極地クルーズ

イチ押しコース
紹介

南極圏を越えて 皇帝ペンギンに出会う (16日間)

The Emperor Penguins of Bellingshausen Sea

南緯66度33分を越えて、南極圏へ。ピーターI世島と、シャルコー氏が発見し、父の名を付けたシャルコー島の2島を周遊。その後、流氷に覆われ、ほぼ未踏ともいえるベーリングスハウゼン海を進み、大陸へ。ほとんど観察されたことのない皇帝ペンギンのコロニーを目にすることが可能だ。ペンギンの中では最大種で、驚くべき潜水能力や厳冬の子育てなど、特殊な生態を持つ皇帝ペンギンとの出会いが待つ。



2022年	
日程	10月29日～11月13日
	プンタアレナス乗船 ウシュアリア下船
	11月12日～11月27日
	ウシュアリア乗下船

21,150 €～

ロス海をも越え、 未踏の南極大陸半周 (30日間)

Unexplored Antarctica between Two Continents



ロス海は、南極の中でも最も過酷な航行となる。南緯90度にもっとも近く、南極探検隊の出発点となった歴史的な場所でもある。ベーリングスハウゼン海とアムundセン海という厳かなる2つの海を通航、途中、大陸にも近づく。ロス海の世界最大の海洋保護区では想像を超える野生生物を観察。南米大陸の最南端から出発した旅は、探検家たちの名を冠した海や島、圧倒的な氷河や棚氷を越え、南極を半周。太平洋側のニュージーランドのダニーデンに到着する。

日程	2023年1月15日～2月13日
	ウシュアリア発ダニーデン着

37,530 €～

人を近づけないウェッデル海と ラーセン棚氷 (13日間)

The Weddell Sea & Larsen Ice Shelf



厚く圧縮された流水でほとんどが凍結しているウェッデル海へ。人を寄せ付けないこの海ではオットセイ、ペンギン、ワタリアホドリなどの多くの野生動物との出会いもある。ウェッデル海の北西にある、「ラーセン棚氷」と呼ばれる巨大な棚氷は圧倒的な景色だ。南極の氷床の浸食を防いでいた棚氷が、過去50年間で定期的に崩落している状況やその影響を、同乗する科学者から学ぶこともできる。



日程	2022年11月26日～12月8日
	2022年12月7日～12月19日
	ウシュアリア発着

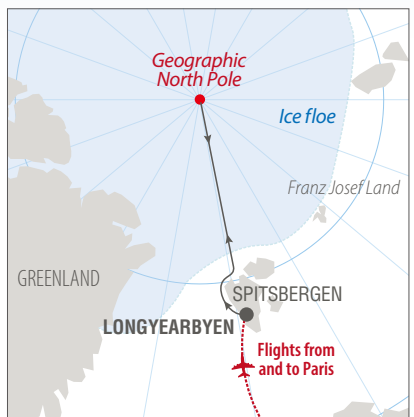
15,230 €～



氷の世界、北緯90度の北極点に到達 (16日間)

The Geographic North Pole

氷河と険しい山々が続くスピッツベルゲン周辺の島や複雑な海岸線の景色を眺めながら、船は流水が海を埋め尽くす最北極地帯へ向かう。船は静かに力強く、最北の陸地から約700キロメートル離れた北極点を目指す。途中、ホッキョクグマ、トナカイ、セイウチ、クジラなどの野生生物との出会いも。永久に氷に覆われている北極点は多くの探検家を魅了してきたが、到達した人は少ない。“北極点”に自分の足で降り立ちたい。



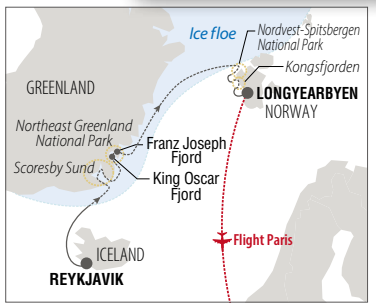
日程	2022年8月7日～8月22日
日程	ロングイヤービーエン乗下船/乗下船地まではパリよりチャーター機
	33,700 €～

極域のグリーンランド北東部とスピッツベルゲン (13日間)

Polar Odyssey between North East Greenland & Spitsbergen



グリーンランドの東海岸から氷海をたどってスピッツベルゲンの雄大な大地を訪れる。春の終わりの北極圏は、まだ厚い氷が残る極限の世界。世界最大の国立公園(グリーンランドの総面積の45%)であり、ユネスコの生物圏保存地域に指定されている北東グリーンランド国立公園へも足を延ばす。有名なフィヨルドや、ホッキョクグマやジャコウウシの生息地でもある。氷のグリーンランド海を渡り、スピッツベルゲン北東部国立公園へ向かう。



日程	2022年6月3日～6月15日
日程	レイキャビク乗船、ロングイヤービーエン下船/下船後はパリまでチャーター機
	18,700 €～

分厚い氷と雪に覆われた北極圏・スバルバル諸島をめぐる (11日間)

Polar immersion in Svalbard



スバルバル諸島をめぐる探検クルーズ。氷海に囲まれた無人島、ノールアウストラネ島にある、自然保護区を通航後、スバルバル諸島の最東端の島、クビトヤまで足を延ばす。さらにノールアウストラネ島西部のヒンロベン海峡へ。氷海を進むと、海鳥、セイウチ、ホッキョクグマなどの豊かな生態や小鳥、壮大な氷河が待ち受ける。南東スバルバル自然保護区は周囲全体が氷に覆われているが、クジラ類、トナカイなども生息。



日程	2022年6月28日～7月8日
日程	ロングイヤービーエン乗下船/乗下船地まではパリよりチャーター機
	17,820 €～

Our Fleet

ポナンの客船



エクスプローラーシリーズ

ル・ラペレーズ (2018年就航)
ル・シャンブラン (2018年就航)
ル・ブーゲンビル (2019年就航)
ル・デュモンデュビル (2019年就航)
ル・ベロ (2020年就航)
ル・ジャック カルティエ (2020年就航)

総トン数: 9,900トン
全長: 131メートル
乗客定員: 184人 / 乗組員: 110人
船籍: フランス / 耐氷船



シスターシップシリーズ

ル・ボレアル (2010年就航)
ロストラル (2011年就航)
ル・ソレアル (2012年就航)
ル・リリアル (2015年就航)

総トン数: 10,700トン
全長: 142メートル
乗客定員: 244~264人 / 乗組員数: 140人
船籍: フランス / 耐氷船



ル・ポナン (1991年就航 / 2020年改装)

総トン数: 1,443トン
全長: 88メートル
乗客定員: 32人 / 乗組員数: 32人
船籍: フランス



ル・コマンドン・シャルコー (2021年就航)

総トン数: 3万トン
全長: 150メートル
乗客定員: 245人 / 乗組員: 215人
船籍: フランス / 砕氷船 (PC2)

お問い合わせ・お申し込みは下記まで



<http://www.ponant.jp>